京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

發行兼編輯人 高木久太郎　印刷人 松久靜一郎　發行所 京城新報社　仁川支局 仁川宮町三丁目　東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

●冥府の伊藤公へ（十）

飄々縮々庵主人

●閣下日韓併合の大業は閣下が當時に於ける方略と畫策とに依つて其の根本を築かれしは敢て言ふ迄もなき所なり而して之れが併合の進行に就て大勢の趨くところを明にし以て機運の到達を促したるは一に新聞紙の力に歸せざるを得ず蓋し當時閣下の政策と新聞紙の論評とは相俟つて半島の輿論に活氣を添へ一面買々踏々の狙人心の趨嚮と時代の潮流とを指導し以て爰に併合の具立を經へ遂に寺内伯の手に依つて之れが併合の實果を結ばしむるにいたれり然らば當時に於ける閣下の政策と新聞紙の論評とは併合の實に對する花ともいふべき乎

●閣下咲いた花なら散らねばならず醉ふた酒なら醒めねばならず併合の實を結ばしめたる花は果して型の如く散りたり而も絢爛として散りにけりマツ閣下はハルピン停頭に於て非業の最後を遂げ曾禰子は二豎の犯すところとなりて敢なくなり其の他當時に於ける功勞者丸山總監梅博士の人材相踵いで逝き更に一方新聞紙側にあつては大韓日報朝鮮日日龍山日の出及び其の他二三のもの相前后して滅びたり固より自滅他滅各々其の滅びたる方法に至つては異なりと雖も直接間接併合の大業に努を力めて滅びたるに於ては敢て渝るなし借問す閣下當時を想起して今昔の感に堪へざるや否や

●閣下予は今叙上新聞紙の滅亡を以て自滅及び他滅と論じたりされど此の自滅は聽て他滅を意味し他滅は聽て自滅を餘儀なくせしむるにいたりたるには非ざる乎予の寡聞なる之れが異相を知るに苦しむされば予は自滅にせよ他滅にせよ之等の滅亡したる新聞紙を以て閣下と同じく散りたる花に譬へたるのみ敢て他意あるに非ず

●閣下併合後新聞紙の滅亡によりて京城に於ける言論界は我かに寂寞を來せり民間新聞としては只一つの京城新報あるのみ群木倒折して今は唯徒らに風の當るに任す其の意氣亦揚すべからずや而して言論界の寂寞に連れて言論の自由の以前に比して窒縮せられたるやの觀あるは是れ果して何の樂ありや或者は言ふ自由の城を脫して放縱の境に入るが爲めなりと或は然らん而り自由と放縱此の兩者は元々隣り同士の關係を有し相互一歩足を兩者何れかの圏内に踏み込まんか忽ちにして爰に兩者の區劃は破らるゝにいたるは言ふ迄もなしされど所謂自由を以て放縱となし放縱を以て自由となすの論は一に依つて當路者其の人と筆者其の人の見地如何にあるのみ何者の痴漢ぞ自ら進んで放縱の域に踏み入り他の飼犬の爲めに足を噛まるゝの愚を演ずるをや要するに言論の制裁は杓子定規の見を以て斷ずる能はず從つて極めて困難事に屬するものたるべしとはいへ宛も啞の意見に口を緘して聞くの心を以て事に臨まば惹したる困難事にはあらざるべき乎夫れで癖に障つたら毆るなり撲つなり勝手たるべき事先きく迄の心配は出來得べきに非じ（六日午後二時稿）

雜報

●米作豫想發表

朝鮮全道に於ける本年第一回米作豫想高は四五日頃發表の豫定なりしも未だ三道に於ける報告來らざる爲め發表の期に至らざるが要するに本年の米作は平年に比して成績良好なりといふ

●輕鐵出願と人氣　韓國瓦斯電氣株式會社が東萊、慶州間輕便鐵道敷設の出願を爲したる以來同地方の人氣俄に引立ち在留内地人の土地買收を爲さんとする者非常に增加し沿岸に於ける漁業者迄が活氣を呈し來りたりと

●方魚津の漁況　慶尚南道方魚津に於ける本年の鰮漁は非常に多かりしを以て漁夫は自然鰆漁も亦豐漁なるべきを見込み目下其漁業の準備中にて同地一般活氣を呈し居れりと

雜錄

●京城週りの記（三）

鐵翠居士

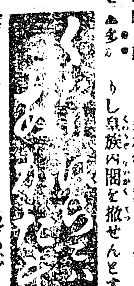
凡、人は其上下に論なく家を宿ふものは婦人なり夫の素行修らざるを叨りに怨嗟嫉視し其家を亂るが如きものは聞いて慚愧すべき也婦たるもの夫れ戒しめ且自ら戒しめて以て賢々たるホームを造るは豈夫れ一身の爲めのみならんや予は之れより更に蹠を轉じ元來し岐れへ至り公園を東へ取り付の露店に憩ふ十八九の姐さん店番を爲し居て予の來るを知るや待遇最も力めたり其相顏より云へば彼の姐さんは田舍ものにて其經驗は良家の下女を卒業したる迄ならん應答少しの修飾なく敎ゆるが如くに下の事を語る此の公園に露店五つあり大抵旭町邊に家を持てるものにて通ふ不便故晝夜共店に寢食す女を雇ゐ居るは此の上に一つあり仲々の別嬪さんなり公園に來る客は大抵散歩にして稀に怪しと認むる婦人を携帶せる仁もあり上の店の雇女が客を取るか否か知りませぬ同店は場處がエーのと別嬪さんが居るから自然客も多ゐ手前方の營業は約五六十圓の資本なり店は先づ月見頃までの見込今迄は僅に糊口を爲し得たる位に過ぎず不景氣で困り居れり夜は蚊多く晝は頗る暑し夕立の時は雷が足許で鳴る樣にあり之れより南山の方へ往かれますと凡てが眞相にして虛飾なしかくする内サイダなり强ゐられては無一文なる事を自狀せざるべからずと思ゐ早く店を辭し左思右考小丘に攀る

外事一束

▲西班牙活動す摩國アガヂール南方の一港灣の占領を宣告し佛紙激昂何等か酬ゆる所なかる可からずと論ず

西獨に佛に與し今獨と提携す佛苦慮す

▲淸國　內閣更迭說わり總理慶親王退職元勳となり那桐後を襲ひ内外の反對多りし皇族内閣を撤せんとする



如し屋王老來政治に倦む退く最可とす

▲一日　午後安東縣貨物列車脫線瀧戴の石油より發火し列車燒失重傷者多し

▲京義　線引込聯絡問題四十二年來の日淸懸案たり這回愈々落着す賀す可し

▲滿鐵　督滿鐵經營の南滿醫學堂に創立費として二萬圓寄附し好意を表す

▲新民　庁の西方鎭安縣一帶馬賊橫行暴に騎兵三營派遣したるも賊勢猖獗にして討滅す可からず爲に再び步兵若干隊を增援したり高粱長け馬賊跋扈

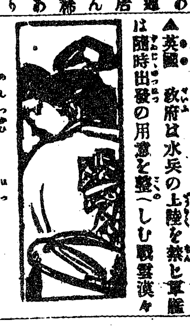
▲歐州　目下形勢不穩ロスチャイルド家獨佛公債賣出したりとの說盛にして

▲金融　界恐慌す此風說十の七八迄事實ならん公債賣出しは普佛戰以來の事

▲他と　ロスチャイルド家は歐州財界の巨鎭和戰の機を掌裡に收むと云はる

▲公債　賣出事實なりとせば彼や獨佛を賭つて戰はしめずんば已まざらん乎

▲英國　政府は水兵の上陸を禁じ軍艦は臨時出發の用意を整へしむ戰雲漠々



召使れ初　第百四十三回

黑法師

「れ道どの」と國尾は詞鋭く「これへ出させ、とつと出させ」

れ道は悲しげに進み寄る、うつむき膝を突くやうに「あなた、此の有樣は什麼でございます。大それた罰され方、あなたれ一人の御恥辱は、當た館一番の恥辱になるを、れ忘れなされたのでござりまするか、身に協はぬ御題ならば麗々しく懷紙などれ上げなされいでも終ひこととそ、古句さし上げ、人間で惡口さるゝが、あなた口惜うはござりませぬか、あなた一代の恥辱と思召はござりませぬか」と畳み掛けて責め問ひぬ

「辨解致すではござりませぬ」とれ道はきつと云ひたるが、流石に聲は慄ひて聞こゆ、流石に顏の色は土の如くなりて見ゆ「有體に申しまする只今れ詠み上げの御歌、私思ひ寄らぬものでござりまする」

「ね、」と澤野は聞き咎め「さらば私御披露に、讀み過ありとの御意でござりまするか」

「只今の御懷紙、私の詠歌ではござりませぬ」

「言語同斷、異な事を仰せぢやの」と澤野は凹みたる目を光らせ「あなた樣れ懷紙でもないに、麗々しう何故た名が認めてござります」

「恐れながら私、筆でなくても、私の名は書かれまする」と何日になく聲を鋭く「然と御詮議、その外に私の詠歌調も節もとゝのはぬ腰折一首ある筈でござります」

「こりや異しい、宿題は一首、その中より優れたるを撰ませるが、例年の御佳例でござりまするを、いかに新參成上のあなたとて、御存じなされぬ筈は無いに、こりや分つた、こりや何ぢやの、古句と御自身詠歌とを二首さし上げ幸に露顯を免れて、これのれ歌撰に入らば、我物顏に手柄して、御褒美に預るれ心、萬々一露顯せば、それは知らぬ、それは誰かの惡戲、私、眞實の詠歌外にござります、とまざ〳〵しう云ひ脫け、恐れ多くも奥方始めを盲目にしやうれ心でござつたの」

れ道は餘りの口惜しさに、唇はわな〳〵慄ひ、齒の根は碎くるばかりに嚙まれて辯解すべき詞も出でず、白き眼に澤野を睨みてはら〳〵と淚を流す

國尾、若江、苟くもた道の平生を知る者は、此も又澤野の惡計、衆人萬座の間に於てれ道に恥辱を與へんとの手術ならんとは推量しながら、恐い口も出されねば、只成行を傍觀するのみ、一座は沒趣けに沒趣けたり

「此れこの懷紙、誰ぞ鑑定して下さらぬか、れ道どのは身に覺わも無いとれ云ひやか、筆跡は手とれぬ、どうとさるの」

「これれ見せなされませ」と第一に謝み出でしは相生なりき、一目見て「白いを黑いと云ふものがあれば知りませぬ、鴉を鴉と見るほどの者、これを他人の筆跡と見るはござりませぬ、縱から見ても橫から見ても、れ道どのれ筆に相違ござりませぬ、のう皆さま」

相生は一味の女中を見返りぬ、女中ども皆なすり寄る

「相生さまれ鑑定、ほんの圖星でござりまする、これを相違と御覽のれ方は、皆なれ道さまれ仲間でござります」

れ道は遂に堪りかねて、疊の上に平伏し泣きぬ



京城新報

拓殖務省の再設(二)
序を以て京日子に諭ゆ

拓殖政務統一機關必要の理由に就て吾人は本論の前回に於て其端緒を開けり承て之れが意義を擴充せむに、吾人が第一に拓殖務省の再設を急務となすは之れに由て、殖民地統治當局者の擅横なる行爲を抑壓し、我文明政治をば母國國土間無差別に施行せしめ、以て統治當局者をして過ち無からしめむことを期待するにあり。人或は謂はむ、現今既に拓殖局の設けあり、拓殖に關する職責を盡しつゝあり、何ぞ今に當つて之を省に上すの必要を見むと、此言や蓋し拓殖政務の目的を解せざる淺薄な分晩濱の口より出づるものにして、淺薄取るに足らざるも、假りに之を容れ敢て言者に問はむ。現在の拓殖局なるものは各殖民地統治者に對し如何なる權能を有しをる乎。其職掌として如何なる事をなしつゝあるや乎。吾人の見る所によれば、拓殖局なるものは其名にれいて拓殖政務の機關の如く思惟せらるゝも、實際は然らずして、唯殖民地に施行すべき法令の立案或は殖民地に關する諸般の調査をなすに止まるの観なきに非ず。豈之を以て拓殖政務の機關と見る事を得むや。更に拓殖局が各殖民地統治上利益ある方鍼を劃し、統治當局者に提供せる事ありとせむか。寛容なる當局者は之を採用するに吝ならざるも、若し狹量にして且つ天皇直隷の最高機關を笠に下級廳を瞰下しをれる當局者ありて此を否認せし場合に際しては拓殖局は總に其提案を擲つの外なきなり。這はこれ吾人の設けし一例に過ぎざるも、現在の拓殖局は其權限狹小にして統治當局者に對して抑壓力を有せざるを以て、或は將來斯る事例の現はるゝなきを保せず。而かも之れが爲に中央政府と殖民地統治者との間意志の疏通を缺き、延いて國家の進運上一大禍源を醸すなしとせず。吾人の拓殖局昇格を主張するの趣旨該に鑑つて自から明らかならむ。尙之に對して辨する所あらむとするか更に吾人が殖民地統治者を抑壓するの時に必要なるを認むる所以のものは、要するに、統治者の地位官等の高き爲め、勢ひ中央政府の意志に反し、往々專權の所置をなすことあるを目睹するが故なり。現に寺内朝鮮總督が、朝鮮に於ける施設に付て全く之を内地人の耳目外に置かむとし、新聞紙上各種の批評各種の論議に對し、治安妨害の名の下に發行を停止し或は移入を禁止せるの方針を執るは、これ明かに我立憲國の常道に反せるものにあらずや。殊に今や半島の秩序回復せられ、至る所平穏無事ならざるはなきに、尙憲兵警察制度を存置せるは、これ半島の平穏は武裝的一時の平穏にして、唯銃劍の先に人民を威壓せしめをるに過ぎずてふ、一般の誤解を惹起し、我文明政治を辱かしむるの甚だ大なるものと言はざる可からず。顧つて、我商法を直ちに準用して差支なきに關はらず、許可主義罰則本位の會社令を施き、世間の批難を蒙むりしがごときは、卽ち總督に過大なる制令權を附與せしが爲なり。之等憲政に背馳せるものゝを見るに至らしめしいもの、畢竟、中央政府に拓殖政務の重要機關を缺き以て統治當局者の專權を抑壓することなかりし結果ならずむばあらず。進んで、拓殖政務機關統一の必要を、經濟的方面より唱道せむか、各殖民地の產業をして、それぞ長所に向つて振興せしめ、殖民地相互間に於ける產業上の利害衝突を防止することを得る等、起らざるものあるも、此他數へ來れば十指を屈するも尙提げて、拓殖務省再設の計畫に讓す。乞ふ詳細に至つては他日論ずるの機會を待て。

東京電報

▲内務省新事業 内務省にては内閣更迭以前より明年度の新事業に對する豫算編成を見合せ居りしが今や次官の擢任も決定したる事とて愈々今週水曜日より參事官會議に於て新事業施設に關する協議を開し本月下旬迄に一般豫算と共に大藏省に提出する筈なりと云ふ

▲秋期大演習方略 大元帥陛下御統率の下に來る十一月第十八師團管下に於て擧行せらるべき陸軍特別大演習は第六、第十二、第十八師團の外後備步兵一個旅團、氣球隊、電話電信隊等なれば其規模は決して大なりと云ふべからざるも其演習地域は久留米市を中心として南は瀨高山崎より北は小郡、田代に至り東は吉井、田主丸、附近、西は佐賀縣、三養基郡一帶に至る一大戰線地にして奥參謀總長が參加師團長に下したる一般方略は左の如し
南軍は熊本を發し北進す
北軍は小倉を發し久留米方面に南進
而して第六師團は十一月一日より熊本附近に於て旅團、師團機動演習を行ひ八日菊池郡隈府町附近に於て演習を終り第十二師團は十月三十一日より旅團演習を開始し十一月八日福岡市附近に於て機動演習を終り十八師團は十一月一日より旅團演習を起し同八日久留米市附近に於て機動演習を終了の上十一月十日參謀總長より指定せられたる集合地に到着し十一日休養翌十二日より十五日迄四日間久留米市を中心として擧行の計畫なり

▲西園寺の侯演說 西園寺侯は政友會代議士會に於て左の演說を爲したり
諸君今度大任を拜したるに付て一言御披露御挨拶を致さんと欲し御集りを願ひたる次第にして私は御承知の通り昨に微力短才殊に數年の間宿痾を抱き蒲柳の質を以て斯の如き大任を拜したるは上 陛下に對し下人民に向ひ頗る憂慮に堪へざる處なり併しながら親しく大任を忝ふしたる以上飽迄微力を盡す覺悟なり我政友會は前途國民の信用を荷ふて今日の優勢を致したるが今後尙一層諸君の援助を得ん事は勿論にして又諸君に於ても今日より政治上に於ても憲政有望の美を成さん事に御痛勵を望む諸君は十分政治家の道德を重んじ國民に對し又外國に對し其責任の重大なるを感じ大に國家の爲め盡されん事を希望す之に付ては一致共力節制を重んじ步調を一にする事勿論なり政府に於て施設せんとする計畫は機會ある每に述ぶる事とす可し自分病軀を提げて大任に當りたるに付ては諸君に於ても十分其意を體せられ國家の爲御盡瘁あらん事を希望す云々

▲大藏次官 大藏省主稅局長橋本圭三郎氏は大藏次官に任命せらるゝこととなり七日發表の筈なり

▲大演習編成 秋季大演習の南北兩軍編成は南軍は第六第十八師團を以て編成し北軍は第十二師團及後備步兵一旅團を以て編成せられ居るもの如し即ち本演習は十一月十二日未明より兩軍同時に運動を起し其第一日に兩軍共に敵狀偵察中柳川、瀨高より山崎谷川附近に於て兩軍主力の衝突あり即ち遭遇戰を以て初まり北軍は其兵力寡少なると地方不利なるより一同久留米附近に退却し後援部隊の集合を待つて攻勢に轉ず南軍は之を追擊し第二日の戰闘は久留米市の南方安武、荒木、津福附近に於て行はれ北軍は優勢なる南軍の攻擊に堪へず再び長郞、小郡、吉井田主丸方向に退却し茲に於て敵の追擊を防がんとす南軍は敵を遠く福岡方面に擊退せんとして退避交戰中第三日北軍は增援隊一個師團(假設)福岡附近に到着せしとの情報兩軍司令官に到着し南軍司令官は久留米以南に退却するに決心し全軍を提げて佐賀縣中津隈より西久留米附近に退却北軍は其增援隊の來着を待たず直に攻勢に轉じ敵を追擊し翌十五日即ち演習最後の戰闘は筑後川を挾んで兩軍激烈なる衝突ある可しと推想せらる然て特設電話事務の開始さるべきは山川、北川、羽犬塚、西牟田、山内北川内、善導寺、吉井、田主丸、小郡等の郵便局にして同地は即ち兩軍主力の大小衝突ある可き地點なりと

▲駐剳聯隊長更迭 朝鮮派遣隊步兵第二聯隊長三輪大佐は少將に昇進し豫備となり後任は步兵第五十六聯隊長入佐田上他次郎氏任せられ

▲東宮妃御消息 目下日光田母澤御用邸に御避暑中なる皇太子妃殿下の御近況を承るに日光御用邸に御避暑以來は適度に御運動を行はせられ從つて昨今は御重患前に倍する御元氣に渡らせらるゝ程なり因に同妃殿下には本月中旬北海道より東京に還啓皇太子殿下前後し御歸京の御都合なりと承はる

▲救恤金御下賜 天皇皇后兩陛下には高知縣の暴風被害を聞召され救恤金千二百圓下賜相成りたり

雜報

●司令官披露宴 既報の如く上田朝鮮駐劄軍司令官は七日午後六時より龍山新官邸に山縣政務總監松永師團長各部局長官明石憲兵司令官並京龍各部局課長以上の各高等官新聞通信社員及民間の重なる者四百餘名を招待し盛んなる新任披露宴を開催せり

●故曾禰子追悼會 來る十三日は故統監子爵曾禰荒助氏薨去の一週年に相當するを以て當地重なる官民及び子爵生前の知友等相計り故人の爲に追悼會を催すとの事なり

●古川家と鑛業經營 古川家にては過般來鑛地技師を來鮮せしめ各地の鑛物を調査せしめ居りしが前途甚だ有望なることは未だ確め得ざる由なるも兎に角朝鮮鑛業經營の第一着手として平安北道碧城郡の金鑛採掘に從事すべしとの事なり

●瓦斯計畫と狀況 日韓瓦斯 日韓瓦斯電氣會社は過日東京に於て臨時總會を開き倍額增資を議決し資本金を六百萬圓にしたるが今其資途を聞くに既に營業に投下したる資本三百三十萬圓、注文品費工事費の支拂未濟の分四十萬圓、殘額二百三十萬圓は來年度以降の新張擴資本にて概略資金需要の見當は來年度九十萬圓次年度八十萬圓以下五年計畫を以て消費し盡す豫算にして是等の資本を以て經營する工事の重なるものは西大門附近西小門東大門鍾路以北に電燈線、瓦斯管を架埋設し猶市區改正に伴つて電車軌道十三哩斗りの延長を企つるにある由而して電燈料も此際大に値下し十二月一日頃より一般申込の分に對し從來の二圓二十五錢(十燭光)を一圓九十錢に又瓦斯代は來春早々一割引の上引設工事費も遞減し大に市民の便宜を計るべしといふ尙京龍に於ける昨今の瓦斯需用者は千八百四十六戶燈火數七千二百三十四個(內普通燈火五千三百四十一厨房用熱火千八百九十三)なるが厨房用の分は冬季に
五十燭八十燭にて五十燭の分は一時間三立方呎の瓦斯を要し八十燭の分は一時間四立方呎の瓦斯を要するが燈火時間は一日平均五時間にて二割以上は點火せざる有樣なるがマントルは多くラミー印を使用し殆んど全部下向きなりといふ次に電燈の需用者は京龍にて二万燈あり普通十燭光平均なりと尙昨今電車の乘客は二万四五千人にて此の賃金七百圓內外なりとの事なり

●美術品製作所の近況 既記の如く漢城美術品製作所は四十一年の創設に係り經費十萬圓(當時の宮內府より七萬圓李鳳來及故金時鉉外二名より三萬圓)を以て開始し重もに當時の宮內府の御用を勤め旁々總督府朝鮮貴族及び富豪の注文に應じ來りしが斯くては收支償はざるを以て其の後一般需用者に販賣することゝし今年春日本人の支配人及び事務員を招聘し業務の擴張を圖りたるが何分刷新後早々の際とて未だ收入の上に於て好成績を見る能はず依つて本年より美術品作製獎勵の名の下に向ふ七ヶ年間李王家より補助を仰ぐことゝなりたるが現今計畫中に屬する方法の下に業務を擴張して爰一兩年を經ば好成績を見るにいたるべく尙昨今製作の部面は金工染織部製絲部石工の四部に分ち更に金工部は金銀細工鑄物鍍金鍛工錺治木工彫刻の數部に染織部は織物染色刺繍の數部に分てるが製作品は何れも精巧にして優美のものなりといふ次に製作に從事する職工は鮮人九十七名日本人四名なるが鮮人の職工中には朝鮮一流の手腕を有するもの數名ありといふ

●教員養成所と兵役 總督府中學校に附屬する小學校教員養成所卒業者の陸軍徵兵服役に關し內地師範學校の卒業生と同じく六週間現役に服する事を得る樣政務總監より陸軍大臣に交涉の結果決定せり

●商議の役員會 既報の如く京城商工業議會會は深水副會頭歸省中なりしため最後の決議を見る能はざりしが氏は六日夜歸城したるを以て八日午後四時より會議所樓上に於て役員會を開き役員の決議を俟つて直ちに委員會を開き設置の事に決定すべしといふ

●京城圖書館現況 京城文庫は過般南大門の新築家屋に移轉すると同時に京城圖書館と改稱し一日の閱覽者四十名內外なるが書籍は總ての種類に亘りて網羅し圖書館としての資格に於て缺くるところなきも唯だ書閒は各々職業を有し居り從つて閱覽者少きを以て秋冷の季にいたらば夜間開館を爲すべ
を用ふべしといふ

●京城夜學校新學期 旭町一丁目京城夜學校にては去る一日より新學期を開始し教科の內容に大改正を施したる由なるが既設の國語、漢文、數學英語四科目以外更らに修身科を加へ大隈伯の國民讀本に據りて專ら精神教育に力を注ぐが如きは其の主要點ならんと而して晝間勤務の餘暇夜間に於て中等程度の主要教育を受け得るは同校唯一の特長なるを以て諸官公衙銀行會社員等の入學希望者漸く增加し現に今新學期の新入生四十餘名に及び各學年を通じての總生徒數約百名に垂したりと

●滊車開通と不通 京義線は瑞興驛井間に於て六日より不通となりたるも七日午前九時十分南大門發列車より開通したり又平南線は六日午前九時より岐陽、新地洞間に故障を生じ不通となり七日正午までは未だ開通せず

●德壽宮祝賀 八日は恰も德壽宮李太王殿下の六旬(六十歲)の御誕辰日に相當するを以て德壽宮に於て六旬の祝宴を擧行さるべし

●大雨と電報遲延 五日以來の大雨の爲め京城平壤間各電信線黃州平壤間にて普通、官方面各地と平壤以北各地間電報は元山江界新義州の各迂回線にて、又滿洲間電報は內地經由にて漸く通信し得るの道あるのみ、之れが爲め電報も幅湊遲延甚しきも當分七日中にて恢復の見込なりと云ふ

●政務總監の下仁 山縣政務總監は八日目下仁川碇泊中の練習艦隊司令官加藤少將催ふ旗艦阿蘇艦上の午餐會に列席の爲め同日午前十時南大門驛發列車にて中山大佐同伴同地に向ひ同日午後四時仁川驛發歸京さるべしと

●加藤司令官退京 入京中なりし加藤練習艦隊司令官及各艦長同將校の一行は六日午後四時南大門驛發歸艦したり

●農事實驗家談

朝鮮に於ける內地人の農業者は極めて僅少にして在來朝鮮人の手に一任せるの有樣なるが將來は東拓の移民と相俟つて大に內地人の農民を移住せしめ農業の發達を圖らざるべからざるは言ふ迄もなし唯農事經營に際して最初注意すべき事は氣候の關係は勿論水害の有無なるが之等は豫め研究し置くを要す由來朝鮮は世人も知る如く河川堤防の設備に至つて不完全にして每年洪水の有る每に損害を來すを免れず現に過般の水害の爲め一般の蒙れる損害は少なからざるが就中三浪津の農作物の如きは大害を蒙れりされば前述の如く之等の經營有無等を逐一審査するを肝要とす而して農作物の中果樹の栽培近來著しく發達し殊に黃海道南北道の如きは氣候地質等專ら果樹栽培に適し而も昨今多くは內地人の手に依つて經營され其の成績如々に良好なり又葉煙草製造は前途有望にして各道に於て栽培され居るも品質粗惡にして內地人の口には適せず依つて五六年前より內地人の經營に依り日本種葉煙草の耕作を慶尚南北道に實施するにいたれり要するに朝鮮に於ける一般の農作は內地人の農民をして耕作せしむを要すと慶南に於ける或る農事通は語れり

●京畿道蠶產狀況 京畿道廳調查
業の中養蠶事業は秋蠶も此の程漸く化したるを以て京城の授產場のみ近々製糸に着手し終つて養蠶の効果を感知せしむるため參考迄に織業を爲す豫定なるが春夏秋三蠶の繭生產高は五十石なりといふ

●平北の白檀及人蔘 平安北道慈城郡內の白檀木(支那形車体製造用に供する)伐採高は昨年中に本數一千九百八十本其價三千九百六十圓に及び又慈城厚昌兩郡內に於ける人蔘採取高は實に五千餘圓に上れりと

●製圖見習生の募集 土地調查局にては十五歲以上二十五歲以下の鮮人よりの製圖科見習生六十名を募集する由にて試驗は九月十七日土地調查局員養成所にて行ふ筈なり

●丑山港寄船開始 元山吉田滊船會社の柳川丸及慶寶丸は釜山元山及雄基間航行の際每月四回往復の豫定にて慶北丑山港に寄港することゝなり六日より開始せり

●黃海道の養蠶者 黃海道安岳郡は氣候地勢共に養蠶に適するより郡廳及警察に於て熱心奬勵の結果從來五十名の飼養者が本年は百餘名に增加せりと

●愛國婦人會慰勞 愛國婦人會朝鮮本部にては前朝鮮駐剳軍司令官大久保大將歸期に際し慰勞の意を表する爲め先頃高麗燒香爐水注一個を贈呈し尙六日出發に際し中山、村山、三木、住永、山形等の各夫人會員總代として南大門に見送れり

●愛婦の艦隊水兵慰勞 愛國婦人會朝鮮本部にては練習艦隊宗谷、阿蘇兩軍艦水兵四百餘名見學の爲入京に付今明兩日景福宮慶會樓に於て茶菓を供し慰勞の意を表したり

●古城民長歸鄉 古城京城民長は嚴父病氣危篤の報に接し七日午前九時往復二週間の豫定にて鄉里大分に歸省す

●岡崎專務の東上 既報の如く臨時
瓦斯電氣會社專務取締役岡崎遠光氏は昨日歸社したるが更に來二十一日開かるべき定期總會に列席のため八日又々東上さるゝ筈なりといふ

●武田氏の東上 報知新聞京城特派員の同氏は二週間の豫定を以て七日南大門發東上

公人私人

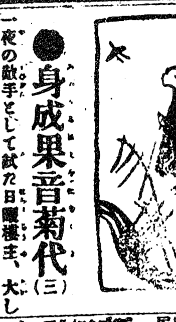
▲明石元二郎(警務總長) 八日の練習艦隊午餐會に列席
▲秋尾旭郎(朝鮮雜誌社々長) 南鮮旅行中の處六日夜歸京
▲武田卓爾(報知新聞特派員)二週間の豫定にて七日午後十時四十分發東上
▲熊谷直亮(平壤民長)十一日頃迄滯在
▲呼子友一郎(昌德宮警察署長)六日夜新夫人同伴歸任
▲本間文一郎(練習艦分隊長)同巴城館
▲新田義任(同上) 同上
▲佐伯隆志(阿蘇艦主計長) 同同上
▲岩瀨靜(大邱會頭) 同同上
▲荻谷敬次(扶桑銀行取締役)同仁川行
▲稻垣幸吉(東京一高等教授)六日仁川行
▲加藤定吉(海軍少將) 同同上
▲平岡貞一(海軍大佐) 同同上
▲小島市太郎(同上) 同同上
▲船越隆義(參謀大尉) 同同上
▲服部廣太郎(大學教授) 同釜山行
▲鳥井龍藏(帝大講師) 同同上
▲長野一郎(判事) 同不二旅館へ

▲京城手形交換高▼

	金高	枚數
九月七日	一九五、八七三、六三〇	五七七

▲治外法權▼

寺內總督が軍事參議官になつた、參議官と云へば相撲の方で云ふ年寄である、サテシテ正毅クンを今から高閣に束ねるのは惜しいものだ▲聞く總督には最近函根へ靜養にと洒落られたとの事、之れを以て見ると彼れも陸相時代とは違ひ大分セヤがあるものと見ゆる、サテは何んぞ早く歸任せざる▲聞く新內閣は南滿鐵道會社會計監督の爲めに政友會所屬の吉植代議士を同社の理事として入れるとの事、亦た聞く、前同樣の意味を以て小川代議士を東洋拓殖會社へ理事として入れるとの內議があるとの事▲新橋下關間は現時最大急行で二十九時間を要す、而るに來年の五月からは新式の機關車を使ひ、二十五六時間に短縮さるゝソウだ、東京と京城其距離が短縮さるればさるるほど同化が早く出來る譯だ▲サテ記者倚ち惟みるに今に於て新機關を要するものは決して鐵道許りでない、總督政治の方へも是非新機關車が欲しい、古代ワット式の機關車はモウ御免だ▲新設京城圖書館は閱覽人で繁昌、日韓書房は新著漁りで繁昌、時さに燈下親しむべきの時となつたりけりか▲先頃創設された京城販賣會社は、粒は小さいが人氣は中々良く、目下一株につき二圓五十錢の權利が附いてるソウだ▲ソレに引換へ例の朝鮮煙草はミヂメなもの、彼の專賣局に對する內地葉煙草拂下げ運動の如き美事失



●身成果音菊代（三）

一夜の散手として試た日曜樓主、大した手取妓と云ふでもないが面も相當なり客扱に不都合もないので徐々抱ゐる事になつてサテ**借金は**と**調べて見ると八百圓の上**に出て居る、夫れ程大金を掛けて迄抱ゐる程の女でもない、夫れに先方では持て餘して居る女……と云ふのだから多少は減くだらう其上で又何うとも云つて見ると買手が出たので慾が出たか一文も減くてとは出來ないと來たのだ其樣に大切の妓なら强つてとは申しません左樣なら、と踏り掛けた日曜樓主の袖へ縋つた菊代の久子短氣を起さないで何うか今少し待つて下さい確に半分には減けさせますからと頼んで置いて内證へ廻り込んだ『減けられなければ減けられないで宜しい妾は今日限り廢業致しますから御承知なすつて下さいまし』と最後の手段を取つたので弱身のある樓主福岡も據なくウンと云つたので日曜樓と**三年間四百八十圓の契約**にて土曜と名乘つて出た當初の間は温順しく勤めたので樓主は飛んだ堀出しものと喜んで居たが段々月日の經つに從つて莫連妓の本性を發揮するに至つた、夫れは後の話しとして彼れは桃山に住替された後も仁川町田商店の菅野武志は遙々と通ひ詰めて居た龍山に於ての重なる客筋は藤村某、高村某、某工場の會計宮本某等で就中最も甘く見られたのが宮本で菅野に逆引の御用金を仰せ付かつて居たのであつた、夫れ此れしてる内に、**樓主の妻君が病歿**したので彼れは**機乘す可し**と敷島淺岡樓主に試みて成功した手を以て挑み莵つたが物堅かつたのか夫れとも他にあつたのか其の術に乘らないのに業を沸やして罷れ出したのであつた四十三年の十一月間樓が新町月下樓跡に移轉するに伴いて新町に來てからは本名の菊代ヶ其儘郎の名に呼ばれて稼ぐ間にも菅野の爲めには**朋輩女郎**の**歌仙の衣類を四十餘圓に入質**せしめ遂引に投じた事もあつた本年三月頃眼病に罹つて二ヶ月餘りの入院、借金が殖ゐたと同時に尻が暖まつたので厭氣がさし中の**新地梅の家に鞍替**をして相も變らず菅野を好い人に某刑事を玉に取つて居る此の欲深い事には少し心安くなると客の財布に手を入れて勝手に掴み出して仲居に祝儀を與れたり馳走を食はせたりすることである一旦の心得違ひから斯くなり果てた彼れの後半生は果して何うあらうか思へば覺束ない限りである（完）

●れとくの欺され

▽美濃谷さんは不人情だ

此の頃仁川本町四丁目なる殿助材木店の裏長屋に通ふ小路に出入する三十左右の婦人てろあれ美々しく着飾りたるさへあるに紅粉を粧ふて居るより近所の人の大評判と成つたり元來此の小路を出入するものは多く社會の劣敗者にして斯る化粧の者の出入すべき所ならねば故こそあらんと探つて見たる誰れあらう、どま名古屋に大有り名古屋は金の鯱鉾此の本人はもないが、ツイ先頃までは同地宮町に**榮亭の仲居**なりし**れとく**（二七）女郎が入りを忍ぶ隱家を此の不景氣な裏長屋に棲び住んでると分明したるが然るにてれとくとも有らう者が如何に不景氣なればとて家賃一ヶ月タッタ三圓の處へ屈んで居るとは此れにも仔細なかるべからずと探つて見れば有る有る大に曰くありて此のれとくの旦那と云ふは仁川屈指の財産家仁川居留民團議員にして勸業會社の取締役水産會社の重役を初めとして其他多くの會社の重役たる新町一丁目にれ住居の**美濃谷榮次郎**氏にして一ヶ月五十圓宛の手當を頂戴することにて契約成立せしが最初の契約を履行し旦那同人と思つて居しに其後美濃谷の其の二十圓を宛飼扶持せず半分にも不足で右の始末と判つて見ると五十圓も少々高いが廿圓では安過ぎると自分の事の如に怒つて居る人が二三人

●前借と年期は別

▽娼妓に無上の福音

從來娼妓の待遇方は冷酷を極めたものであつたが一旦自由廢業と云ふ利器が娼妓の手に渡されて以來著しく改善された就中關東地方は稼ぎ高の分配法なぞも叩き分け（折半）とするのが多い如である（以前は四分の三を樓主）夫れでも決して滿足のものではないがマア幾分向上した譯で大した不平も聞かなかつたが近來大阪に於て遙かに其の聲が高まりたる結果新聞紙の同情と當局者の干渉とに依つて食事や待遇法は大分良好なつたけれど前借と勤め年限とは自から別であると云ふ根本問題は解決せられなかつたが今回同府警察本部保安課にて種々審議の結果多年の弊を破るため遂に九月四日付を以て府令の娼妓取締規則中の一部を改正し自然に**人身賣買的の非法**を**取締る**ことゝなつた樓主のためには非常の痛手なるべきも娼妓のためには無上の福音である、即ち娼妓が名簿に登錄を受くる每に「**負債償却明細簿**」といふものを作りて最初に前借金を記入せしめ揚代金を每日記入し別に賦金、食費、湯貸、衣裳代、髮結賃、其の他の入費を支出の都度一々記入し每日合計をなし月の終りに於て其收入と支出とを差引し殘金を借金の中より差引き行くものにて其帳面には**抱主と娼妓が一々認印**を押す筈である、コレならば樓主が惡い事も出來ず又借金さへ濟めば何時なりとも止めることも出來ることゝしたのである、尚其の筋にては帳面の變造僞造を防ぐ爲めに此の帳簿の頁每に割印をなし置き時々檢査をする筈であるが追々と各地にても此の例に則ることゝなるであらう

●龍山の强姦未遂　京城府龍山漢芝面普先里統戶不詳趙昌植（三二）は五日午後二時頃同地西氷庫三契一統四戶の姜文植妻崔氏が三人の子供と共に自宅の温土炉内に於て寢に付き居りたる處を表戶を開き侵入せしにより崔氏は之を誰何せしに趙昌植わりと稱せし故今頃何用ありて來りしやと問ひ掛けしに何の答もせず直に戶内に押し入り崔氏が起きんとせしを打ち臥せ聲を發せば殺すと云いながら獸慾を遂げんとせしを崔氏は悲鳴を發して救を求めけるに近隣の者共驚き駈け付けたるにより加害者趙昌植は附近の山林へ何れともなく逃走せり因に趙昌植は崔氏の夫姜文植と共に西氷庫三契渡船場の船夫にして同夜は姜文植が渡船場に宿直なりしを以て此隙に乘じて同人の妻女を强姦せんものと踏み込みしものにして當夜現場に遺棄しありたる煙管にて犯人は趙昌植に相違なき事判明せしにより目下嚴重犯人搜査中なり

●仁川の赤痢續出　原籍長崎市紙屋町七十番地丸目幸平（六七）は仲幸一が仁川より歸國の途次赤痢に罹り仁川避病院に入院中の附添看護中六日同病に感染したり▲原籍廣島縣加茂郡内海村四百四十五當時仁川仲町三丁目六番地政田伊三郎（三三）は一昨日赤痢に罹り避病院に收容さる

●盜品を弟に預く　大阪市南區櫻川町二丁目當時龍山鐵道官舍五十一號工務課職工大島松之助（三三）は每日工務課工場に通勤中去る四十二年七月より工場内にありたる鍛冶道具金物類四百四十點（代八十餘圓）を竊取し實弟なる大島政藏（三二）が龍山岡崎町に居住し鍛物職に從事中なるより同人宅に預け置きたるを其筋に探知され檢事局に送られしが七日京城區裁判所に於て宮脇判事の係りに野田檢事立會の下に公判開廷せられ松之助は竊盜罪に政藏は贓品隱匿罪にて求刑せられ言渡は九日午前九時に決したり

●仁川港の難波船　六日夜の暴風雨の爲め仁川港黄島沖西方二百米突の位置に碇泊中の朝鮮帆舩船主崔永甫黄景植の二人は五日仁川本町吉金喜三郎氏の所有の籾三百二十三叺を龍山より積載し來りたる折偶々暴風雨にて帆船は激浪に呑まれ過半浸水又は流失したゞ幸ひ救護を得船體及人命に損傷なかりしが損害高三百五十餘圓なりと云ふ因に同籾は帝國海上保險會社の保險に付しありしと云へば吉金氏の損害は至つて少なかるべしと云ふ

●罰金は十圓笞は百　福岡縣平民當時黄金町三番戶ノ六飲食店中原與市（三五）愛媛縣人當時京城中部長通坊第七區架橋洞十三號の一古物商野長太郞（四〇）岡山縣人當時階町八十三番戶中原重治（三二）黄金町十統三戶藥商洪順範（三二）の四名は六日午後四時半頃より中原與市方に於て花札を以て賭博を爲し銅峴分署に檢擧され與市長太郎重治は各罰金十圓に洪順範は笞刑百に處せられたり

●葉山虎男護送さる　小倉市より金一千圓を拐帶し逃走し仁川にて阪下今井の兩刑事に捕へられたる葉山虎男（三四）は昨日小倉地方裁判所檢事の令狀により護送さる

●徵兵忌避　長崎縣下縣郡湯原町百二十八番地當時住所不定長留重藏（三二）は三十一年九月仁川港に上陸して以來一定の住所を有せず正當の理由なく徵兵檢查を受けず今日迄該檢查を忌避し諸所を徘徊し鮮人相手に詐欺賭博を爲し居たる事判明し其の筋に檢擧され目下京城區裁判所檢事局にて取調中なりと

●金光敎靑年會　當地永樂町（元永樂亭跡）なる金光敎京城分敎會に於ては日鮮人の信者非常に增加したる由なるが過日同敎會内に靑年會を特設し每月信者未信者に拘はらず入會を許し每月第二第四土曜日午後より講演會を開き各方面の學術的研究をなし傍ら敎義の研究等をなし學者の講演等を乞ふ筈也

●京城禁酒會　八日（金曜日）午後七時半旭町二丁目名古屋城に於て矯風禁酒講演會を催す參聽隨意なりと云ふ山形甚之助君の演題左の如し
心理學上より見たる精神病

●演藝だより

▲歌舞伎座　活動寫眞及びキチオラマ電氣踊り等にて每夜の大入

▲龍山座　六日初日を出す筈なりし同座の桃中軒雲柳の一行は折柄の暴風雨に一日繰延七日夜初日と變更したるが二日目（八日）の讀物は晝の新講談『奇年立志』『軍事探偵』夜柳は『南部坂雪の別れ』『岡野金右衛門繪圖面取り』

▲壽座　片岡鶴之助の浪花節芝居

●太王殿下と天勝

李太王殿下には松旭齋天勝の奇術の玄妙を聞召し八日午後を以て德壽宮に於て御覽ある可き旨御沙汰に接したる天勝一行は畏くも李王殿下の御覽を辱ふし今又此の御命に接したることを無上の光榮とし大連行を繰延べたりと云ふ



▲明治町青物市場南小路通行の際小便を催したので周圍に人なきを幸ひ失敬せんとしれるに物蔭より一人の壯漢顯はれ出で南部署に來いと謝罪しても聞入れゝばこそ無理に引致せんとする所へ來蒐つた一紳士風の人が間に入つて姓名を名乘つてる違警罪未遂犯人を引致する法は無いと言つたので捕ゐた手を放した男は土佐紙合資會社の神沢を着て居たので今迄は刑事と思つて默つて居たが左樣判つては承知出來ず土佐紙合資會社員が何の權威あつてアンナ事をするかと會社に行つて尋ねたら警察署の命令を受けて本店員は放尿者を引致せしめつゝありと云つた（無名氏）▲果して事實ならば土佐紙合資會社は捕繩十手を預つてる八州御用聞きつてね役廻りだナ（小僧）▲某官舍の先生より御尋ねの私立高等裁縫女學校のあり家を僕が降り甲斐に知らせて取す其は大和町一丁目に普請中の寺がある其の北隣かじや傘本に標札を揭げてあるから行けば直ぐわかるよ▲其れに自分の娘が降りで譯もせず歸りて際されたのを取上て私立高等裁縫女學校を京城隨一の不常明者の標本にしたのは餘り殘酷なると……（故障生）▲私は海上生活を為る船を我家として居る者です▲海上生活はして居ても戸籍は海上に置く理由にはなりませんから戸籍だけは陸上の或る知人の元に寄留届してあります▲處が民團役場からは戸別割を徵收する▲消防事務所からは常備消防協議費を徵收する▲私の如き海上のみにて生活して陸上には買物の外上陸せぬ者にも右の如き費用を負擔する義務がありませうか（一海員）▲仁川にも金掛の惡いものも隨分あるが山手町の田中程惡いものは有るまい自分のものは他の名義に切り換ね債權者から嚴しく請求すると差押でも何でも勝手にせよと云ふ有樣だ彼れと取引するものは注意し玉ね（掛取小僧）▲仁川京町交番所は最も往來頻繁な四ツ角で加も下り阪の方へ突出て居るので通行人の危險夥し僕が先日現認したるは下より學校の生徒が上り掛ると横手から鮮人の車力が重荷を挽て來たが車の速力が速まつたので危なく轢きつぶさんとした（米屋の番頭）▲仁川仲町一丁目の山上得二は每晩賭博をなすはよいが敗けた時は口論から大喧嘩を初めるので何日もながら近所の迷惑一方ならずれ取締を願ます（暇與生）

國亂れて忠臣現はれ 悪疫流行して良藥世に認めらる

無事の日は、効驗卓絶なる良藥も平凡なる藥劑も之を實試せらるゝ機會少なきが故に其結果を判別せらるゝ事も稀なり

然れども腸胃患者激増し悪疫流行の兆ある昨今に於ては平凡藥を用ふるの結果と實効藥を用ゆるの結果とは實に雲泥も啻ならず

ヘルプの如き卓抜の良藥は此時に於て愈々眞價を發揮し平凡藥は此時に正体を暴露す

ヘルプの眞價を現すは悪疫流行の兆ある今日也





●實驗は事實を語る
●事實の前に虚言なし

諸君は既にヘルプの何物たるを知ならん
知りて未だ之を實驗せざる方ありや

時は今!!

中暑水傷寢冷腹痛食傷吐瀉等
腸胃病に罹り易く悪疫流行せんとする今

ヘルプを用ひて腸胃の健全を計り悪疫を未然に防止せられよ



なんでヘルプは……藥

●味で買ふのは食ふ藥
　効能で買ふのは眞正藥
●無病で飲むのは食ふ藥
　病氣でヘルプは飲む藥
●齒で噛む藥も食ふ藥
　ヘルプは錠劑飲む藥
●寢冷え腹痛食あたり
　腸胃の病に飲む藥
●暑さあたりや吐き下し
　夏季の病に飲む藥
ヘルプは眞に
　實効本位で飲む藥

ヘルプ主効――

●時候傷り
●水あたり
●寢冷腹痛
●食あたり
●吐き下し
●腸加答兒
●腸の瓦斯
●澁り腹
●此外一切の下痢を止め腸胃を整ふ

定價
壹圓
五十錢
卅錢
廿錢
十錢

東京日本橋區本銀町三丁目
發賣元　津村敬天堂